資料３　実践経験者調査【教職員】

板野中学校全体学習
人権を語り合う中学生交流集会

60 代女性　ＹＣ　教員　メール

集団で語り合う学習について

１．当時思っていたこと
言わずと知れた効果

・教師の言葉ではなく，同じ目線の友達の言葉，生活を共にしている子からの語りには比較的，心を開いて考える。その子のいつもの声で，いつもの言い方で話されると，特に素直に受け止められるということをよく目にした。子どもたちは自分の心のアンテナに響いた言葉を思いの外，覚えていたり考えていたりする。発表はしなくても考えを巡らしていたことは確かである。黙っていて発言はしなくても，クラスの他の子たち同士のやりとりに，かなり心を動かされていた。
・熱い思いは伝染する。ただその速度には人によって違いがある。胸に悩みを秘めている子ほど炎はつきやすく，燃え続ける。
・もちろん，意見を出し合うことによって，そこに参加しているもの全員が考えを深めたり，広めたりすることができるが，それだけでなく，緊張の中で誰かに聞いてもらおうと言葉を選びながら発言する中で，発表者自身も思考が深まっていく。話す中で自分の考えを深めることができる。
・思いを出すことで周りを信頼している証になる。そしてその信頼に応えようと周りも発言を重ねつながっていく。どの子も自分をさらけ出すことで，良いところももう一つなところも全て受け入れていける人間関係が育っていく。そうやって育った人間関係があれば他の授業も自然と発表が多くなる。今推し進められている言語活動が当時にもう可能になっていた。

進行役の立場としての私

・語り合いは，とにかく発言から始まることであるので，黙ったままの重い空気を破って始めてくれる子の存在がないと前に進まない。最初の揺さぶり，投げかけに苦労した。
・当然のこととして，こちらに熱い思いがないと生徒たちは心を開かない。
・また教師と生徒，生徒同士の信頼関係ができていないところに真の話し合いはあり得ない。そのために日々，自分はこれだけの人間だと言うことを，子どもたちに知ってもらう。生活ノートでの会話，学級通信，休み時間などでの話などで，私自身の思いを伝えていく。そのこと抜きでは全体学習はできないと思っていた。それには，一番最初の全体学習の司会での苦い経験があったから。

５時間目のクラスの話し合いが終わり，その後の６時間目の学年全体学習での司会だった。私の問いかけに誰も応えない。思いあまって指名した生徒が発した言葉が一言，「わかりません。」しかもにやけながら。むっとした気持ちを抑えて，次の生徒に指名。「わかりません。」その後も数名のわかりませんが続いた。最悪だった。その後のことはあまり覚えていない。修正できずじまいで時間が過ぎた。なんやねん，まったく心など育ってないじゃないかと子どもたちや全体学習を批判する気持ちでいっぱいになった出来事であった。

しかしながら，無理もない。病休開けの途中赴任，授業でしか会わない副担。事務的に全体学習の司会をしている人間に，心など開けないのは当たり前である。

・また，こんな私の話より〇〇先生がここに来て話してくれた方がよっぽどたくさんの意見が出る，代わってくれないかなあと思っていた時期があった。他のクラスの先生のやり方が気になってしかたがなかった頃もあった。生徒たちも敏感に感じ取るのか，そんな私が前に立っても，おそるおそるの意見が多かったように思う。もうこのクラスは私がやっていくしかない。と覚悟を決められるようになってから，自分自身もクラスも少しずつ前に進んでいくというか，歯車が回り始めたのではないかと思う。それにはもちろん，蔭でたくさんの先生方の問いかけや投げかけがあっただろうし，私自身にもたくさんの先生にかなりサポートしてもらったことは確かである。
・気をつけていたこと，それは周りがどんどん発言する中で，追い込まれて無理矢理発言するようなことはさせない。私がそうされて発言するのが嫌いだからである。自らのわき上がる思いでの発言でなければ，まわりにも響かない。

しかしながら思いを募らせて手が上がるまで，かなり揺さぶられないと立ち上がる勇気までにはならない。その素地としての「思い」。日頃から人権意識を磨けるようにいろいろなことから発信していかなければならない。

２．今振り返って思うこと

他に認めてもらいたいと思うのは誰しもであると思う。子どもたちだけでなく大人であっても誰かに承認してもらいたい。だめな部分がいっぱいあるこんな自分でも受け入れてほしいと。人の弱み，痛みに静かに耳を傾けてくれる，そんな語り合いの場がいくつになっても必要なのではないかなと思う。

全体学習という場で，一人の子の意見にじっと耳を傾け思いを巡らすという経験を積んだ子たちはきっと人の痛みを優しさで温かく包む心を育てていったと思う。いろいろな人がいて，いろいろな思いがあって，それが当たり前なんだ。みんな発展途上にいてもがいているんだということを知っているから優しくなれる。

そんな優しさをもった人たちにいっぱい出会えつながれた，そして自分改革にもつながった全体学習に取り組んだ日々は，本当に貴重で，その後の教職ばかりでなく私の生活全てを支えたものになっている。

今も心に刻んでいる，「あの子たちに恥ずかしくないか？」「今自分は輝けているか？」と。

板野中学校全体学習

人権を語り合う中学生交流集会

50代女性　ＦＣ　教員　聞き取り

聞き手による聞き取り（(　)内は吉成）

自分やでやりながら，仲間づくりをしよるんじゃっていう意識もあったし，そうしなければならないっていう使命感もあったんやけど。いいところはいっぱいあって，本音で話し合える雰囲気ができてくることとか，それでないとできない絆とかもあったと思うんやけど，あの時している者として，ひっかかるところが２つあった。それは何かというと，１つは，しんどいことをしゃべるというのは，ものすごくエネルギーがいるのに，教師としてそれを皆の前でやっぱり話さそうとしてしまうのね。話したいという気持ちが高まって話すのじゃなくって，話さそうとする自分がいるわけね，授業を成立させるために。しかもそれが体育館，全体学習だったときが体育館だったからなんやけど，ホンマにしんどいことって，ホンマの親友にもなかなか言えない，最後の一線が許せれたときの人にしか言えないことを，あの当時生徒に求めてたことのせこさがあったので，それを求めさせることのしんどさって，ずっとずっと感じとったのは事実。もしあの形が続かなかった一つの理由があるとしたなら，同じものは，よく教員の中では，やっぱりそこがしんどいなっていう話はしよったのは事実だとは思う。良さも感じながら，良さと同じだけのしんどさ，教員としてのしんどさもあったと思う。それは人に授業を見られるっていうことじゃなくて，生徒にそこを求めなければならなかったこと。そこを求められなかったのかもしれないけれど，授業を深めようとすれば，そこを自分の中で求めていく部分があったので，そこがせこかったことが１点あった。

もう１点は，子どもが子どもを責めたり，子どもが大人を責めたりっていう場面がたくさん見られた。それは自分が学校現場で，それはもちろん例えば運動の一つと捉えれば間違いなく合うとることなんだろうけど，差別解消に向けての運動というか，大きな流れとしては間違ってないんやけども，学校という場で心がじわじわ育っていったらいいぐらいの中学校という成長過程の中で，それが大学生になると違うと思うんやけど，中学生という多感な時期に自分の思いをぶつけることは悪くないと思うんやけど，それで人を責める人が出てきたっていうところに，どこかで違うぞって思うところがあった。少なくとも私はこの２点において，あの形式の良さと同時に，良さもいっぱい感じとったんやけども，良さってい

うのはさっきも言ったような，あの時しか学べなかったものがある，あの時しか聞けなかった本音がある，あの時しかなかった絆がある。それと同時に，そのことのしんどさかな。それはあったと思う。生徒自身も，そういうのを聞くのが好きな者もおれば，そういうのを聞きたくないって思う生徒もおるなかで，全部に同じものを求めていたものがあったので，最初教頭先生から聞いた形っていうのは，教員のレベルが違う中で，教員のレベルが同じになるように真ん中で授業をして，それを見てお互いに勉強しあおうだっていう感じだったのが，私やが知っとるころにはだんだんと友達を責めたり，やらない子を責めたりっていうのがあった。そういうところはやっぱりちょっと，自分の中ではひっかかった部分かなと思う。(団体組織が先鋭化していくような感じ？)そう，そうやね。だから，頑張れない人にとって居ずらい場所？になっていくせこさはあったと思う。二分化とまではいかんのやけど，何となく言えた人，言えなかった人みたいな，きっちり二分されとるわけではないんやけど，なんとなく。エネルギーがいるんよな，人権学習って。そのエネルギーがまだたまってない人に，エネルギーを求めるもの，そこはあったような気がするけん，そこの部分は，もしかしたら他の人も感じとった部分かも分からんし，人によって違うかもしれんし。私はそうだった。

いいところはやっぱり，例えば絶対言わなければならないわけではないんだけども，自分がどんな立場でどう頑張っていくかっていうのは，あぁいう支えがあったからこそ言えるようになった子たちはたくさんいると思う。今なら言わずにおったようなことが，あの仲間であの場所やけん，立場宣言がいいわけじゃないんだけど，それを言って聞いてもらうとか，そういうものが出たのは，やっぱりあの雰囲気があったからかなと思う。(学級では無理かな)学級だけでする分にはどこまでできるかとは思うんやけど。少なくともたくさんよりは少ない人数の方が，それはやっぱり言いやすいと思うね。だからやっぱり，例えば地区のお父さんやお母さんと話しするときに言える本音が，じゃあ研修の場で私たちが同じように言えるかっていうと，やっぱり研修の場だったら言えない部分が出てくるのよね。それはやっぱり，ここだったら言えるっていう安心感，そういうのがあるので，学級でも一歩一歩かなって思うかな。中１があって，中２はまだ言えずに中３になってやっと自分の中の自分ていうものができて，考えというものができて。そしてその何人かが言えたときに，また違う絆っていうものができるんかなって思うんやけども。それも１年の時から同じものを求めるっていうのも，今の自分が離れてこの歳になってみて，中学生の発達段階を考えたときに，１・２・３同じはちょっと難しいかなって思うけど。やっぱり３年生になって，そうなって，離れてもいける絆ができるっいうことやと思う。それはでも，部落差別だけじゃなくって自分のしんどさ，ただ，ただ何度も言うけど，自分のしんどさを抱えて生きてる人が山ほどいると思う。生徒の中でも。でもそれを出さないから強く生きられてるところもあると思うんよね。例えばここだったら言えるけど。

良さっていうのはもう１個はあの時に教員も，板中の時の教員とのつながりって，今こうやってバラバラになってもあのとき一緒に務めたっていう絆はごっつい固いと思うんよね。それは考え方も感じ方もやり方もまったく違うけれども，でもあの時板中で務めた絆っていうのは，私にとっての財産だし，〇〇先生が話したこと，吉成先生が話してくれたこと，それから他の人と話し合った，いい点も悪い点もね。みんなの前では言えないけれども，ここはせこいよなっていうことも含めてね。あの時できた絆っていうのは，教員自体の絆も違うと思う。それは今までいろいろ務めたけど，やっぱりどこの絆が一番強かったかっていったら間違いなくそれは板野中学校の絆だったと私は思う。私が板野中学校に勤めて一番良かったのはその点かな。だからここでは本音でしゃべれる。ほれはなにかって言ったら，あそこであの場で人権問題を語り合う中で，やっぱり自分の思いを本音でしゃべれた絆があるけんやし，それが〇〇先生の求めるもんやし，先生の求めるもんやしっていうのは分っとんやけど，じゃあそれが体育館で人が見よるなかで，まあクラスの中ででも，クラスの中で今できるかって言ったら，例えば今うちの中学校がクラスとしたら，私はこのクラスの中ではしゃべられない。そんな気がする。(何の違いがあるんだろうか)何の違い。板野中学校では，自分の正直な思いを言っても，受け止めてくれるという安心感がある。もちろんちっちゃい人数の絆はいっぱいあるのよ，けど学校全体でホンマに本音を語り合えるっていうのは，ホンマに板野中学校ともう一個私は瀬戸中学校やな。瀬戸中学校はやっぱり，荒れた中に行って，みんなでそれこそ本音でしゃべりながら，こうしたいこうしたいっていうのを本音でしゃべり合えた違いかな。例えば先生と私のやり方はまったく違うと思うんやけど，だから先生のしよることはすごく理解できるし，やり方は違うけどどっかで一個になればいいなと思うし。めざすところはみんな一緒な気がするのね，板中のあのときおった先生方って。自分の力量とかによって違うでぇ。だって私は〇〇先生にもなれないし，先生にもなれないし，自分の

やり方でしかやれんのやけども。でもめざすところは一個だった。今はめざすところが違うなって感じがするし，それはやっぱり本音で語り合ってないからやと思うし。ただ，本音で語り合うことの素晴らしさは自分の実体験としては分かるんだけど，中学生の生徒にそれを求めることのたくさんの集団の中でね。クラスという集団であれ，一人とか二人じゃなくって，そういう集団の中で求めることのせこさは，やっぱり何年経ってもあるような気がする。だから今までも，あの時と比べたらちょっとずつ勉強が増えていくっていう段階やけれども，それでもやっぱり本音で言うってことには時間がかかる。一個ポロッと言えるかどうか。その一個ポロッと言えたときには，絆がグッて深まるんやけど，その一個のポロまでは，こちらからも強制もしないし求めないので，すごく時間がかかる。先生の言よった，きれい事ではダメだって，そのことはすごくクラスの中でも分かるんやけども，でもそうならないきれい事にならない集団づくりのためには，ほとんどの教員は，〇〇先生や吉成先生じゃないよ，ほとんどの教員は，きっと時間と段階がかかるんだろうなって。せこいところは，しゃべればつながりができることは分かっとんやけど，やっぱりしゃべらないかんのかな。(いや，無理してしゃべらすものではないと思う)ポロッと出る瞬間を待つことは，Ｔ中の先生やってできるし，人権学習の中に，何かのエキスっぽいものが入って，ただの学習じゃなくって，そういう本音がポロンてしゃべれるものが出てきたらいいとは思うんやけど，少なくともそれは，人が見ていないという絶対条件が私はいると思うのね。参観日だったりとか，あの時たくさんの人が見よったけれども，たくさんの人が見ればその数の分だけしんどいことを言った人間は，自分からエネルギーが人間の数だけ吸い取られていく気がする。だって人に言いたくないことは，全員が知ってる事実になってしまうわけやし。あの時と同じものは難しいと思うんよね，Ｔ中でしようとしたときにね。だけど例えば，吉成先生がそうやって小石を投げることによって，Ｔ中の先生がそれについて反応するわけだから，できるとかできんとかね。そこは本音で言ってくれるわけじゃない。あの時はできないと思いながらも，とにかくやらなければいけないという感じだったので，本音は言よんやけど，とにかくやらないという選択肢もなかったし。とりあえずやらなければ，第何回目だみたいな感じだったので。だからなんて言うのかな，もっと自然のなかでできる形があるのであれば，きっといろんな学校にも広まると思うんだけど，Ｔ中に限らず。どっかに無理があれば，やっぱり広まらないと思う。でもＮ中の子がね，全然人権問題学習深まってなかったんだけども，あのようけの中で〇〇先生が来て話したら，ガラって変わるん。何で変わるか分からんのやけど，魔術のように変わるわけよ。だからそうやって変わった中でしゃべりたいっていう子が，その子らが核になってしゃべって，オレこんなことがあったんよみたいにしゃべってくれるのは全然いいと思うんやけど。オレしゃべったからお前もしゃべれよみたいになったときは，やっぱりうまくいかないかなとは思うな。でもその，しゃべらなければいけないっていうようながんばり屋さんの子がまずは自分からしゃべらなければいけないみたいになってはいけないと思うのよね，自分を潰すと思うんよね。だから私自体はしんどいことは人に言わなくていいんじゃないかな，ただどうしても聞いてもらいたいときができたらしゃべったらいいかなと思うんだけど，その形の模索を先生方とすれば，何かの方法があると思うんだけど，でもそれは今，それぞれが何かをプラスするだけでできると思うんだけど。(ちょっとぐらいのフリはしてもいいと思うんだけど，すごいフリはさせたくないのよ。子どもにも先生方にも。続かないから。かといって，されるものが，上っ面の表面上のモノにしかならなかったら，それは，意味あるの？っていう話にもなるんやと思う)自分のしんどいことって，一番最後のとこにあると思うんよね。そこに行くまでに，例えば自分と部落差別との関わりに気がつかんかったけど，もしかしたら自分の中にある不安感とか，人を見る目とかがそこにつながっとんかなと思ったらしゃべれる。それ聞いて自分もそうやと思うところからしゃべりはじめれると思うんよね。最初からポーンとしんどいところしゃべれっていうのはしんどいと思うし。だからそれを先生が，段階を追って，例えばこの教材では歴史の中で歴史を学ぶことによって，自分の中にも不安感からくる人への偏見みたいなのあったわとか，人から無意識に聞いて，こんなふうに思うてしまってたことあったわって言えるような教材ですね。このことをしゃべらせれたらいいねって先生が教えてあげられる。みんな求めてると思うの，人権問題学習で，どの教材でどういうことを子どもたちがしゃべればいいのかなっていうのは，教員特に若い先生分からんと思うのよね。私たちの年齢ができることって，そんなことかなって思うのね。だから，この教材で子どもたちがしゃべれるとしたらこんなところまで，ここまで行けんでもこんなことが話し合えれたらいいねっていうモデルみたいなものを作っていくなかで，３年の終わりに卒業にあたって，自分のしんどいことがちょろっとしゃべれるようになって，行く道が違うけども，お互いしんどいけど頑張らんかな。もししんどいこ

とあったらお互い連絡取り合わんかなって。命大切にせんかなって。しんどいことあったらまず，何かしんどくてもう生きれんわと思うたら，連絡ちょうだいなっていう関係ができあがって卒業できたらいいと思うし，そういうことをみんなに提案すればいいんじゃないかなって思うんやけど。

例えば形から入ったまず拒否されると思うんよね。全体学習します，人権集会しますっていうなかで，一年目は人権集会っていう形で，先生のクラスがあったとしたら先生のクラスでやってみて，自分のめざすところはこんなところなんやけど，まあもし他の先生方もやってみようと思うたらやってみませんかっていう形だったらできると思うんやけど，人間なので強制されるとまずしたくないっていうのがまずあると思う。とりあえずまず一人でもやってみようかなと思うたらいいかなって思う。

(指導案はどうだった？)指導案は，私はあの指導案は好き。主題設定の理由。(あれにエネルギーを費やしたことは確かやと思うんやけど，エネルギーを費やすあまり，あそこはやっぱりネックになっとん違うんかなってずっと思ってきた)あそこは自分と部落差別の関わりを本当に真剣に考えたのは，あの指導案があったからやし，あの指導案がよそでは使われんのかな。多少はみんな自分のこと書くけどやはり学級のことでな。あれが広まらんかったことは私にとっては残念やな。あの指導案は私は好き。ちょっと長いけん大変やけど。自分の仲間内やけど，あそこがしんどいっていう話は聞いたことがない。何回も練り直さないかんけん時間はとられるけん，実情的には部活に行けないとか，ほんなんはあるけど。あそこは，長く書く必要はないとしたときに，自分と部落差別との関わりっていうのはやっぱり書かないかんだろうし，人権問題をなぜ自分はするのかっていうことは，やっぱり私は。葛上先生がＳＲＰＤＣを言ったときに，Ｓ，自分のたち位置って言って葛上先生は生徒の立ち位置っていう意味があったんやけど。生徒が例えば部落差別と自分がどうかかわっとるんかっていうのを考える立ち位置だったんやけど。あれをＮ中学校は教師自身の立ち位置ってとったんやけど。私は教師自身の立ち位置ってとったのは教頭先生なんやけど，その教師の立ち位置っていうことが，特にこの人権学習をするときの私はスタートだと思うので，私はあの指導案は好き。好きというか，私はあれは必要だと思う。(当時言われよった，いわゆる同和教育観ていうやつよな。かといって今の時代に人権教育観ていう言葉はないけど)でも，なぜ自分はこの人権学習を生徒としていくのかっていうところは，まあ今は求められてないけん書いてないけど，やっぱり書いた方が，なぜ自分はこの学習を子どもとともにしていくのかっていうことの，とってもとっても大切なことと思う。私はあれは好きだったな。あんなに真剣に指導案を書いたことなかったんじゃないのかな。自分のことだから？自分の心と何回も何回も何回も対話して。私は自分がどう考えてどう生きてきたんだろうってごっつい考えたので，それは教員としての立ち位置でもあるし。それは私個人はそう思う。

(学級づくりが機能していたら全体学習はいらんだろうか)全体学習が求めるものは，Ｎ教頭先生から聞いたのは，先生によって，特に同和問題学習をするときの力量っていうのは違う。先生を責めるためのものじゃなくって，できる者がして，それを周りに広めていったんでいいじゃないかっていう立ち位置でしはじめたんよって。私が，最初こんなに何もかもしゃべらないかんのですかねってＮ教頭先生に何かの拍子に言ったと思うんよね。こんなに人前で自分のことしゃべるのは自分やってせこいのに，子どもやってせこいと思うっていう話をしたことがあって，そのときに，最初のスタートはそんな感じだったんじゃやいうて。ほなけんどうしてもしんどかったらしゃべる必要もないし，それは教員やって同じやしって言われてちょっと自分の中で楽になった部分があったんやけど。たぶん自分の中でもいっぱいいっぱいだったんだろうなと思うんやけど。そういう意味において，例えば先生が，例えばよ，みんなは嫌って言ったときに，じゃあ人権集会して，僕がちょっと進めさしてもらうのを，１年に２回させてもらっていい？っていう形だったらみんなも，もしかしたらどうぞって言ってくれるかもしれないよね。それを，アンタもせえよって求められるから，自分は無理ってなるのであって。こんなことちょっと子どもたちに考えてもらいたいけんしよんよって言うたら，それは私はあの形をとることの意味はあると思う。ただみんなにあの形を求めることは，力量から言っても難しいと思う。教師の力量を上げることが，あの目的ではないと思うんやけれども，いろんな力のある先生，いろんなことが分かっとる先生，いろんな勉強をした先生が，ちょっと小石をみんなに投げ込んでくれるっていうのが，あそこのいい点だと思うのね。でもあの当時，それが合うとったかどうか分からんかったけども，みんなが同じように学級づくりができなければいけない，教員も一緒になって学級づくりができなければいけないような感じがしたのね，自分は。でもそうじゃなくてＮ教頭先生が言うような，ちょっと子どもたちに小石投げさせてもらって，あともしかしたら教室でこんな話になってくるかも分からんけど，なったらなったでいいし，ならなかっ

たらならなかったでいいから，ちょっとだけ俺のクラス使って授業するので，例えば見てもらっていい？とかいうのだったら，みんなも，どうぞって思えると思うのね。たぶん全体学習が広まりそうで広まらなかった一つはやっぱり，自分が持っている力量と求められているものの違いはあったと思う。多くを求めないことだと思う。子どもにも教員にも。あの指導案やってホンマに見つめたもの書けなくてもちょっと，10 分考えてみて考えたこと，自分の。なんで人権教育するんかなっていう言葉が，どっか一言入ったらいいよな，くらいだったらできるかもしれないしね。見つめて掘り起こしていったら，書いたところから違ってくるでね。書けば，ホンマにこうかな，ホンマにこうかなって思い出すのよね。そのなかで，あぁいいな，それちょっとやってみようかなって思う先生が出てくればいいし。私たちができるのは，世の中とか学校教育を変えることではなくって，世の中や学級をつくろうとか，世の中にちょっと役に立とうとか，世の中を少し変えていこうって思う，何かほんの少しの力添えをできることだと思う。もちろんそうなったときに，人が人を変えるのは難しいけど，自分を変えることはできる。みんなそれぞれ自分をちょっと変えたいなって思った瞬間が，たくさんの中にできたときに，それが変える力になると思うんやけど。上手いこと言えんのやけど。本人が変わりたいと思ったときにしか変われない。変わりたいと思うきっかけとか，感情だったりとか，そういうもんだと思うんだけど。

(中学時代に何ができると思うか)私はその子の存在意味の手助け。それは人それぞれ自分の思う仕事は違うけど。例えば，あなたがこの会社いてくれたら助かるわとか，家族が助かるわとか，ありがとうみたいな気持ちが持ってもらえる人になってほしいなっては思うので，そういうことのためにこの現場でおるのかなって思うのね。私と接した生徒の思い出なんて，怒られたとか，部活で怒られたとか，学級で怒られたとか，いつ生徒が集まっても怒られたとか，いつ同窓会しても怒られた話しかしてくれないんだけど。こうやって怒られたとかあぁやって怒られたとか，職員室で座らされとったとか，今では体罰のようなことしか出てこないんだけど，もうほんな思い出ばっかりだったら困るので。でもみんな立派な大人になって，みんなとっても一生懸命生きとって，そういう一生懸命生きる，一生懸命生きる力をつけるお手伝いかなと思う。でもそのなかではたぶん，高校でもっとつけてくれたりもするし，小学校でもいっぱいついとるだろうし，その中のほんの一部分の生きる力がこんだけあったら，ちょっとこの辺を，ちょっと入れこんどる，１ピースか２ピースか入れこんどるだけなんだろうなって思う。でもその１ピースか２ピースがなかったら，この子のパズルみたいな絵はできあがらないので，それはなくてはならない１ピースか２ピースなんだろうなって思うんだけど。と思いながら仕事はしよんやけど，でも時々，何もできてないなって思って，嫌になる。でも子どもが頑張んよるん見たら，まあ何かのお手伝いはできとんかなって自分を自分で慰める。

そういう感覚は，私は全体学習の中ではなかった。なんでかって言うたら，私がいっぱいいっぱいで，正直言って子どもがあれで変われたような授業は，私の全体学習ではなかった。ただ〇〇先生とか先生の授業ではあったと思うんやけど，私の力量ではなかった。そのときあの授業の中で精一杯子どもを発言させるように，発言できんかったんやけど，発言させようということしかなかったので，なかったというか，そこまで自分の中で同和問題に対しての知識も，書いとることとか教えてもらったこととかもあるんやけど，思いとかも。まだまだ，50 年生きてきたけん子どもに対して思える思いもあるんやけども。あの 27，28 のときの，自分の子どもに対する思いっていうものと今は全然違うと思うので。あのときの自分の中に，そういう学級づくりとか，学級は学級でいい学級だったと思うんやけど，今求めるような思いのような，今言ったようなことが，全体学習のなかでできたかって言ったら，私はできてなかったと思う。全体学習を通じてっていうのは，ホンマの意味での仲間づくりやと思うんやけど，それは私の力量の問題であって，形の問題ではなくって，私の力量としてはなかったような気がする。あったらたぶんよその学校でもしたんやと思う。実感としてね。あれで生徒が変われたわ，学級が変われたわっていう実感が自分の中にできるような授業までは，私は，自分の力としてね，それは形の問題ではなく全体学習の問題でもなく，自分の 27，28 のときの力量だとか経験，授業の善し悪しじゃなくって，思いだとかが育ってない部分においてできなかったんだろうなって思う。

(先生も覚悟は必要だったと思うけど，子どもも覚悟は持ててる子はいたのでは？)一部の子にはあったと思う。例えばＨＰとか，耕されてる子どもの中にはあったと思うのよ。でもそれは耕されている土壌があってのプラスアルファであって，学級全体としてパーンと返ってくるっていうものは人それぞれに違うかったような気がする。例えばＫＧの人生にどれだけかかわれたかっていうたら，授業を通じても何通じてもないのよね。今でもどうしようって思うんだけど。私の，今でもずっとずっと心配なのは彼女だけなの。(元気にしてる。去年同窓会で会った)

先生だったらあの人権学習のつながりのなかでできるのよ。でもそれができた人っていうのは，数が少ないような気がする。私も板中の３年の時の同窓会はしたことあるのよ，何回か。みんな元気にしよんよ。全員来とるわけじゃないんやけど。いろいろ派手になったり，地味になったり，真面目になったり，いろいろしとるんやけど。でも私自体は，人権問題学習を通じての仲間づくりっていうんではなくって，１年間一緒に生活した中での仲間づくりのような気がする。一般的なものの一つとして，他の学校よりは濃い人権学習はある。けれどもそれは，濃い人権学習がこのなかにあるだけであって，それが全部覆ってるわけではないと思う。自分はね。先生や〇〇先生はようけ，全面覆ってるような気がする。ここの土台にそういうものがあって，そのうえに学級づくりがあるんだけれども，私たちはこれが学級だとしたら，その中の一部分に，他の学校よりは濃い人権学習だとか仲間意識だとかそういうものがあったと思うんだけど。私今まで25年やってきたなかで子どもが人権問題学習がしたいなぁって思える気持ちになったときっていうのは，やっぱり楽しいのよね。でもそれはやっぱりちょっとずつかなって。この歳になってちょっとずつ待てるようになってきたん。だから子どもに求めるものはホントにちょっとずつなのよね。だからまだまだ私は今年で１年，２年と持ち上がってきたけど，今やっと力がついてきて，思いが育ってきよるところであって，まだそれは発信できるじゃなくて，いっぱいいいこと書いとんやけど，ほれは本音のいいことね。きれい事じゃなくって，自分の中の意識だとか差別意識だとか，ちょっと見つめられるようになってきて，まだ文章にはできるんだけど，まだちょっと人前ではっていう段階でなんだけども。そういうものを求めすぎないことが，25 年の経験かなと思うんやけど。でもそれは先生が思うような仲間づくりとは，なかなか他の人に同じようにはできなかったんじゃないかな。

もう一個。例えば立場宣言するにしても，ずっとずっと自分はその立場だっていうことが意識されて生活していくわけやけど，自分に子どもがおったときに，もうそのことから離れて生活してもらいたいっていうのも，自分の中にはあるのよね。もし自分に子どもが生まれとったとしたらよ。そうすると，軽くてはいかんのやけど殊更に重たいことにはしたくないっていうのは今もあるし，あのときもあったような気がする。話があっちこっち飛んでゴメン。(学級づくりをしていく上で，歌の好きな先生のクラスが歌に特化し，絵の好きな先生のクラスの先生が絵に特化し，お笑いの好きな先生はお笑いに特化し，何でもいいと思うんやけど，いくつかあるクラスの中に自分のクラスもあって，それぞれのカラーがあって，けど中和されて調和されたらいいと思う。けど，それぞれのテーマには必ず人権ていうテーマがあると思う。担任のカラーの違いがあって，学級のカラーの違いがあってでいいんじゃないか，それが自然なんじゃないかなって思う)それだったら，Ｔ中の先生も受け入れられると思うけどな。先生の 25 年の重みを感じた。あの時はみんなが同じ色であることが求められたので，それは貴重な経験だった。それに対して文句があるとかじゃなくって。そのために自分も苦しんだけど勉強にもなったし，だからこそしかできなかった絆も間違いなくあったので。私の財産は，全体学習の中でできた教員の絆だと思う。残念ながら生徒を育てるところまでは私にはできなかったけど。もうあんなふうな本音で語り合える学校は私の中にはないような気がするな。若さなのか何なのか分からないけれど。まあいいか，もういいかって思ってしまう。教員に対して。